

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野西北小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞ 問いを正しく読み取ることに課題がある。 全国学力・学習状況調査においては、無回答率が高い。 ＜指導上の課題＞ 習熟や復習に取り組む時間が不十分である。	⇒ ・朝学習の時間をさらに効果的に活用し、基本的な内容の習熟に取り組む時間を確保する。【年間35時間以上】
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ 生活経験に基づいて考える問題の正答率が低い。 無回答率が高い。 ＜指導上の課題＞ 個別最適で協働的な学びのよさを実感し、考えを深められる授業実践が少ない。	⇒ ・校内研修を充実させ、個別最適で協働的な学びの授業実践を共有する。(毎学期2回以上) ・アウトプットを中心とした学習活動を実施していく。【毎学期1回以上】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	調査結果
思考・判断・表現	結果提供(2月)	

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語に関しては、どの項目も全国平均を上回る数値である。しかし、無回答率が全国平均を上回っていることが課題である。漢字に直す問題の無回答率も高いことから、基本的な知識を定着させる指導の充実が必要である。また、国語の勉強が好きだに對しての肯定的な回答が令和6年度に對し、令和7年度は減少したため、国語に親しむことのできる授業を実施する取組が必要がある。算数は、どの項目も全国平均を上回る数値であった。しかし、問題2(2)の台形を選ぶ問題と問題3(3)の数直線上の分数が問われる問題の正答率が低い。図形や分数の基本的な理解を深めるなど、基本的な知識・技能を定着させる時間が必要である。	
思考・判断・表現	国語に関しては、どの項目も全国平均を上回る数値である。しかし、「C読むこと」問題3(2)の複数の条件に合わせて理由を答える問題では、どの条件も満たさない解答をしている割合が高かった。問題を正しく読み取って解答することの課題がみられる。算数に関しては、どの項目も全国平均を上回る数値である。しかし、問題4(2)のような複数領域にまたがる問題の正答率は低めであった。さまざまな領域の考え方を生かして問題に取り組む力に課題があることがうかがえた。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	・朝学習の時間の確保ができていない。 ・「ドリルパーク」は、課題配信だけでなく、活動が早く終わった児童が取り組むなど、短時間でも活用している。 ・朝学習で、話し合いの基本的な行い方を扱うことで、基本的な話す・聞く力の育成を実施している。	変更なし
思考・判断・表現	B	・自主的な公開授業の実施が進められ、教職員間で様々な実践の共有が定期的に行われている。 ・アウトプットを中心にした学習活動を設定し、一人で取り組むか、小グループで取り組むかなど、課題に応じて選択できるような機会を意図的・計画的に取り入れている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)